

主題研究

特殊学級担任の指導力の向上を目指す 研修の在り方に関する実践的研究

- 研修の内容と方法に視点を当てて - (第2報)

特別支援教育室 高橋 由紀子

研究協力校

花巻市立湯本小学校

石鳥谷町立石鳥谷中学校

研究の概要

この研究は、小・中学校の特殊学級において、児童生徒一人一人の「生きる力」をはぐくむための指導内容・方法についての研修試案の作成と試案に基づいた実践をとおして、特殊学級担任の研修の在り方を明らかにし、小・中学校特殊学級担任の指導力の向上に役立てようとするものである。

本年度は、研修試案を具体化した「特殊学級担任研修ブック」を作成し、実践をとおしてその有効性を検討した。

その結果、「特殊学級担任研修ブック」を活用することにより、特殊学級担任は自分のニーズに合った研修を計画的に行うことができ、児童生徒理解を深めるとともに指導内容・方法を改善することにつながり、研修試案の有効性が確認できた。

キーワード：特殊学級 研修 特殊学級担任 専門性 研修試案 「特殊学級担任研修ブック」

研究の目的

特殊学級においては、児童生徒が将来にわたって、地域の中で豊かに生活することができるように「生きる力」をはぐくむことを目指し個々の発達の状態や特性等に応じて指導することが必要である。そのために、特殊学級担任は児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、指導内容・方法等の理解を深めることが求められている。

しかし、特殊学級担任は、自己のニーズに応じた研修の機会が十分ではないために、特殊教育に対する専門的知識や新しい情報を得にくいことから、児童生徒の実態に応じて指導計画を立案することや学習形態を工夫することが難しいなど、授業を展開する上で苦慮している現状が見受けられる。

したがって、このような状況を改善していくためには、特殊学級担任が、在籍する児童生徒の理解を深める研修と、指導内容・方法の研修を行い、特殊学級担任としての資質の向上を追求していく必要がある。

そこで、この研究は、小・中学校の特殊学級において、児童生徒の一人一人の「生きる力」をはぐくむための指導内容・方法についての研修試案を作成し、研修試案に基づいた実践をとおして、特殊学級担任の研修の在り方を明らかにし、小・中学校特殊学級担任の指導力の向上に役立てようとするものである。

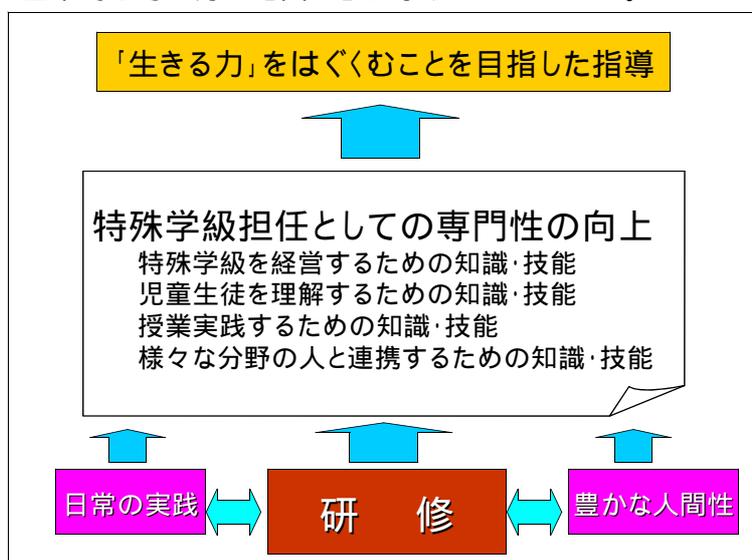
特殊学級担任の研修の進め方についての基本的な考え方

1 特殊学級担任の研修の在り方についての基本的な考え方

特殊学級担任の研修の在り方についての基本的な考え方は【図1】に示すとおりである。

特殊学級担任の研修の目的は、日々の実践力を高め、児童生徒の指導に生かすことにある。研修と日常の実践をくり返すことにより、特殊学級担任としての専門性を高め、「『生きる力』をはぐくむことを目指した指導」の向上が図られるものと考えられる。

児童生徒一人一人の「生きる力」をはぐくむことを目指し、特殊学級担任として幅広い専門性を向上させるためには、特殊学級経営、児童生徒理解、授業実践、様々な分野の人と



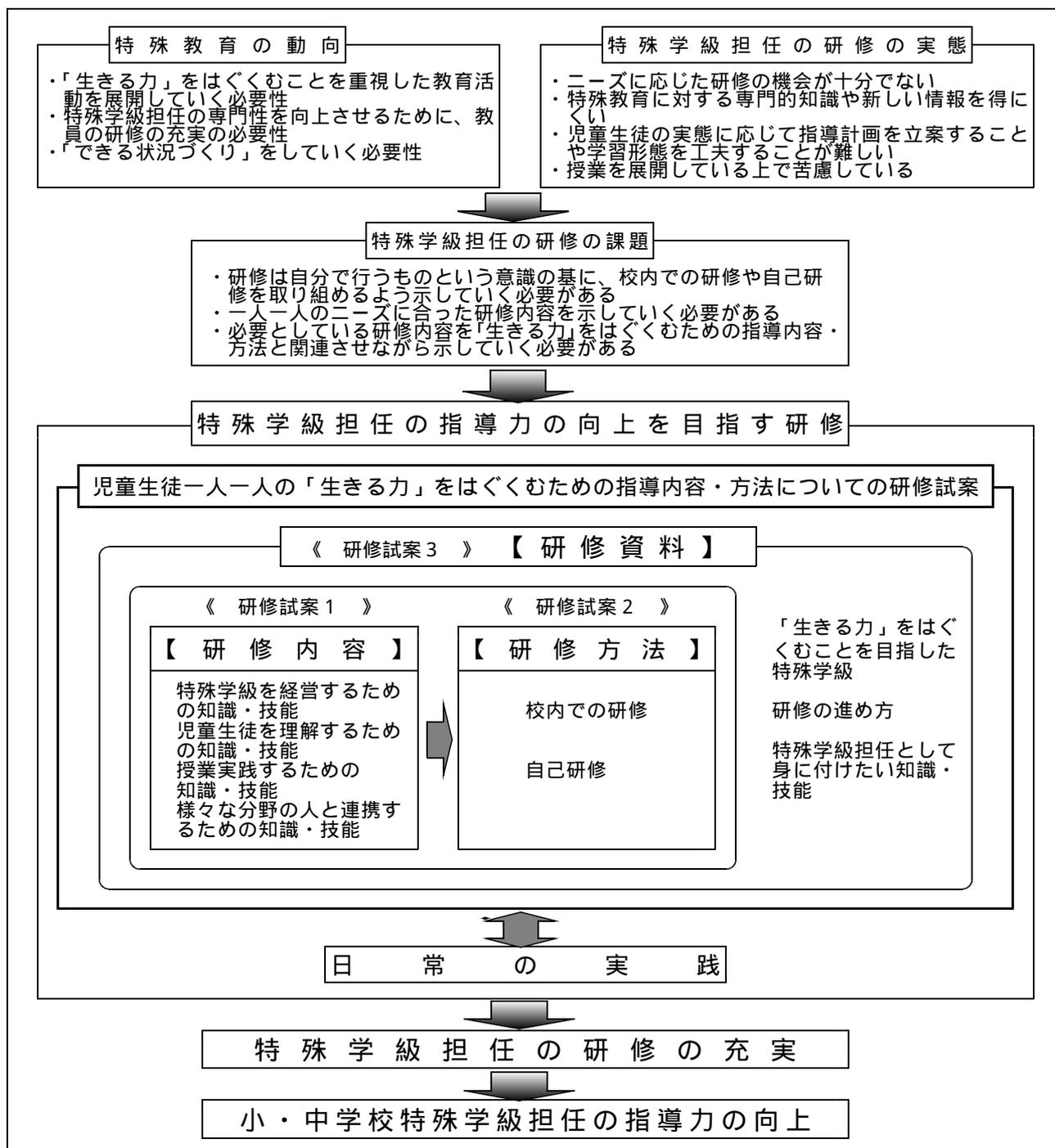
【図1】 特殊学級担任の研修の在り方についての基本的な考え方

の連携について、それぞれのための知識・技能に関する研修を行っていく必要があると考えた。

2 特殊学級担任の指導力の向上を目指す研修に関する基本構想

昨年度県内小学校・中学校知的障害及び情緒障害特殊学級担任281名に行った実態調査より、特殊学級担任の研修の現状について、公的機関の研修は行っているが校内での研修や自己研修の機会が少ないこと、特殊学級担任は指導の困難さを感じているものの、研修の内容がニーズに合っていないために実践において苦慮していること、特殊学級担任は児童生徒の指導内容・方法にかかわる研修や今日的な課題の研修を必要としていること、の三点が課題として明らかになった。この課題を解

決するため、校内での研修や自己研修の在り方を示したもの、一人一人のニーズに合った研修内容を選択できるように示したもの、特殊学級担任が「生きる力」をはぐくむための指導内容・方法と関連させながら研修できる研修資料、の三つの観点からなる研修試案が必要と考え、基本構想を立案した。この三つの研修試案に基づいた、特殊学級担任の指導実践を行うことにより、特殊学級担任の内容と方法に視点を当てた研修の在り方が明らかになり、特殊学級担任の指導力の向上に役立つのではないかと考えた。基本構想に基づいて作成した基本構想図は【図2】に示すとおりである。



【図2】 特殊学級担任の指導力の向上を目指す研修の在り方に関する基本構想図

上述の三つの観点に基づいて作成した、研修試案1「ニーズに合った研修内容」、研修試案2「校内での研修、自己研修を中心にした研修の方法」、研修試案3「『生きる力』をはぐくむための指導内容・方法についての研修資料」は、教育研究158号（216頁～217頁）を参照。

本年度研究の分析と考察

1 研修試案に基づく指導実践計画の立案

(1) 研修試案を具体化する「特殊学級担任研修ブック」の作成

本研究において、研修試案に基づき指導実践を進めるに当たって、特殊学級担任が日常的に活用できるような、研修試案を具体化したものが必要であると考えた。そこで、研修試案を基に「特殊学級担任研修ブック - 生きる力をはぐくむために - 」(以下研修ブック)を作成し、それを活用した指導実践を行うこととした。

ア 研修ブックの構成

研修試案を具体化した研修ブックの概要(目次)は【図3】に示すとおりである。研修ブックは、第1章～第4章の四つの構成(総頁91頁)から成るものである。

第1章の前段「はじめに」では、特殊学級担任が主体的に研修することの必要性を述べるとともに、研修ブックの使い方を示した。第2章では、特殊学級担任の研修の進め方について解説するとともに、研修試案1「ニーズに合った研修内容」と研修試案2「校内での研修、自己研修を中心にした研修の方法」を具体化したシートを盛り込んだ。第3章、第4章は研修試案3を具体化したものであり、27頁で述べた特殊学級担任として身に付けたい四つの知識・技能について、研修しやすいように編成した。

このように、特殊学級担任が自ら主体的に研修に取り組めるよう構成したこと、一人一人の様々なニーズに応えられる内容を網羅できるような構成としたことが、本研修ブックの特徴である。

イ 研修ブック作成に当たっての留意点

特殊学級担任が研修の中で日常的に研修ブックを活用できるようにするため使いやすさを考慮し、研修ブックを作成するに当たっては、以下のことに留意した。

特殊学級担任が抱えていると予想される日常の様々な疑問を「Q(question)」で示し、疑問から研修内容を選択できるようにしたこと
研修ブックについては、見やすさを考え、見開きになるように内容を精選したこと
本文中及び第4章に参考資料(引用文献・参考文献)を提示し、自分で研修を広げていくことができるようにしたこと
研修ブックのCD-ROM化も図り、具体的な記入例、参考資料、特別支援教育関係のWebページへリンクできるようにしたこと

(2) 研修試案に基づく指導実践計画

研修試案に基づく指導実践は、研究協力校である花巻市立湯本小学校(特殊学級担任1名)、石鳥谷町立石鳥谷中学校(特殊学級担任2名)において、7月～11月に行った。

目次	
はじめに	
第1章 「生きる力」をはぐくむことを目指した特殊学級 (Q1～Q3省略)	
第2章 研修の進め方	
Q4 特殊学級担任の研修はどのようなものがありますか	
Q5 特殊学級担任として必要な研修内容はどんなことですか	
Q6 自分で行う特殊学級担任の研修はどのような方法がありますか	
Q7 具体的な研修の進め方は、どのようにすればよいのですか	
第3章 特殊学級担任の手引	
特殊学級を運営するために	
Q8 特別支援教育の今日的な動向はどのようになっているのですか	
Q9 特殊学級担任にはどのような役割がありますか	
Q10 特殊学級の学級事務にはどのようなものがありますか	
Q11 特殊学級の学級経営案はどのように作成すればよいのですか	
Q12 特殊学級の教育課程はどのように編成すればよいのですか	
Q13 特殊学級の年間指導計画の作成の手順を教えてください	
Q14 特殊学級ではどのような通信票にしたらよいのですか	
Q15 特殊学級の指導要録の様式や記入の仕方を教えてください	
毎日の指導を進めるために (Q16～Q23省略)	
障害種に応じた指導をするために (Q24～Q30省略)	
理解と協力を得るために (Q31～Q37省略)	
第4章 参考資料 (Q38～Q39省略)	

【図3】 特殊学級担任研修ブックの概要(目次)

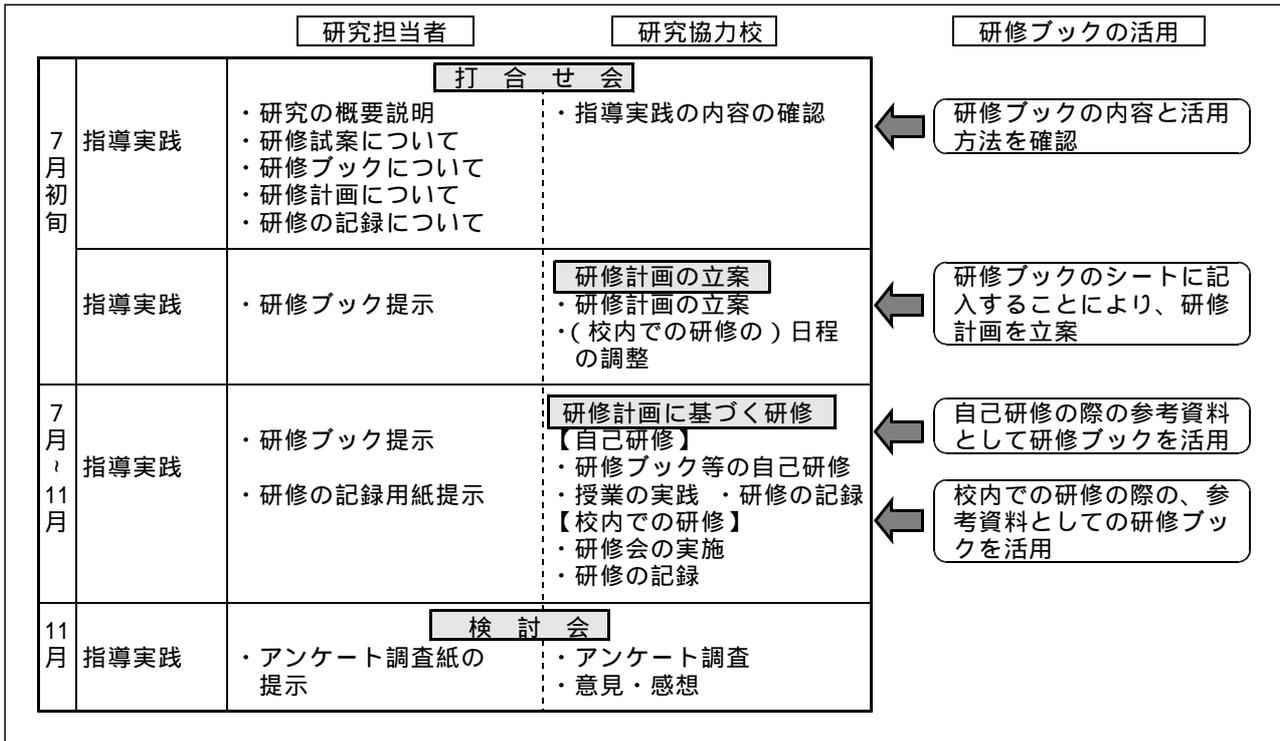
研究協力校の特殊学級担任のプロフィール等は、【表1】に示すとおりである。

指導実践は、研修試案を基に作成した研修ブックを特殊学級担任に提供し、特殊学級担任がその活用をおとした研修を進めるものである。

研修試案に基づく指導実践計画については【図4】に示すとおりである。

【表1】 担任のプロフィール等

担任名	担任A	担任B	担任C
学校名	花巻市立湯本小学校	石鳥谷町立石鳥谷中学校	
学級の種別	知的障害	知的障害	情緒障害
特殊教育経験年数	6年目	2年目	13年目
在籍する児童生徒の人数	4名	4名	3名



【図4】 研修試案に基づく指導実践計画

2 研修試案に基づく指導実践（担任Aによる実践を中心に）

(1) 指導実践 打合せ会の実施

打合せ会は、特殊学級担任の研修の在り方について理解が深まるよう、研修試案の説明や研修ブックの活用の仕方などを中心に行った。打合せ会には、特殊学級担任だけでなく、学校長なども参加した。指導実践の具体的な内容は、【表2】に示すとおりである。

【表2】 打合せ会の内容

指導実践の内容	概要	持参資料	配慮事項
研究協力校打合せ会 研究の概要説明 研修試案について 研修ブックについて 研修計画について 研修の記録について	・研修ブックを提示しながら、研修試案と研修ブックの関連、研修計画について具体的にイメージをもたせながら説明	・研究協力校打合せ会資料 ・H14研究発表会発表資料 ・研修ブック ・研修の記録	・特殊学級担任の研修の在り方について、昨年度の資料をもとに説明することにより、特殊学級担任の研修の重要性を共通理解を図った。 ・研修ブックの提示によって、特殊学級担任は、研修について、具体的なイメージをもちながらの話し合いとなった。

(2) 指導実践 研修計画の立案

指導実践 は、特殊学級担任が研修ブック第2章にある研修計画表のシートに書き込む実践である。

ア 研修課題と研修内容の決定

担任Aによる、研修内容を決定するためのシートへの記入は【資料1】に示すとおりである。担任Aは研修計画表のシートに記入することにより、「指導上の課題」「校内の課題」「今日的課題」の三つの視点から課題を整理し、「交流教育」にかかわる課題を多くあげていることに気付くことができた。そして、焦点化する中で、研修課題を解決するための研修内容を「交流教育の進め方」に絞り込むことができた。

【資料1】 担任Aによる研修内容を決定するためのシートの記入

研修計画を立てましょう

1 あなたが今抱えている、課題をあげてください。

指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> 異学年児童が共に学べる教科学習と領域・教科を合わせた単元づくり。 交流学級のできる教材づくり。 学級在籍4名より多い小集団グループでの学習の推進を図り実施したい
校内の課題	<ul style="list-style-type: none"> 交流教育の指導計画、指導内容の共通理解に乏しい。 校内研究の内容と、特別支援学級児童の実態との共通課題が必ずしも一致しない。 通常の学級の担任から見る特別支援教育とは何か。
今日的課題	<ul style="list-style-type: none"> これからの特別支援学級の啓発。 L D、A D H D児が在籍する学級経営の抜本的な変革。 L D、A D H D等に埋もれてはならない、知的障害教育の推進。

2 1にあげた課題の中から焦点化し、研修課題を決めましょう。

困難さを強く感じる課題・優先度の高い課題
 ・児童の実態に応じながらも弾力的な交流教育をどう進めていくか。

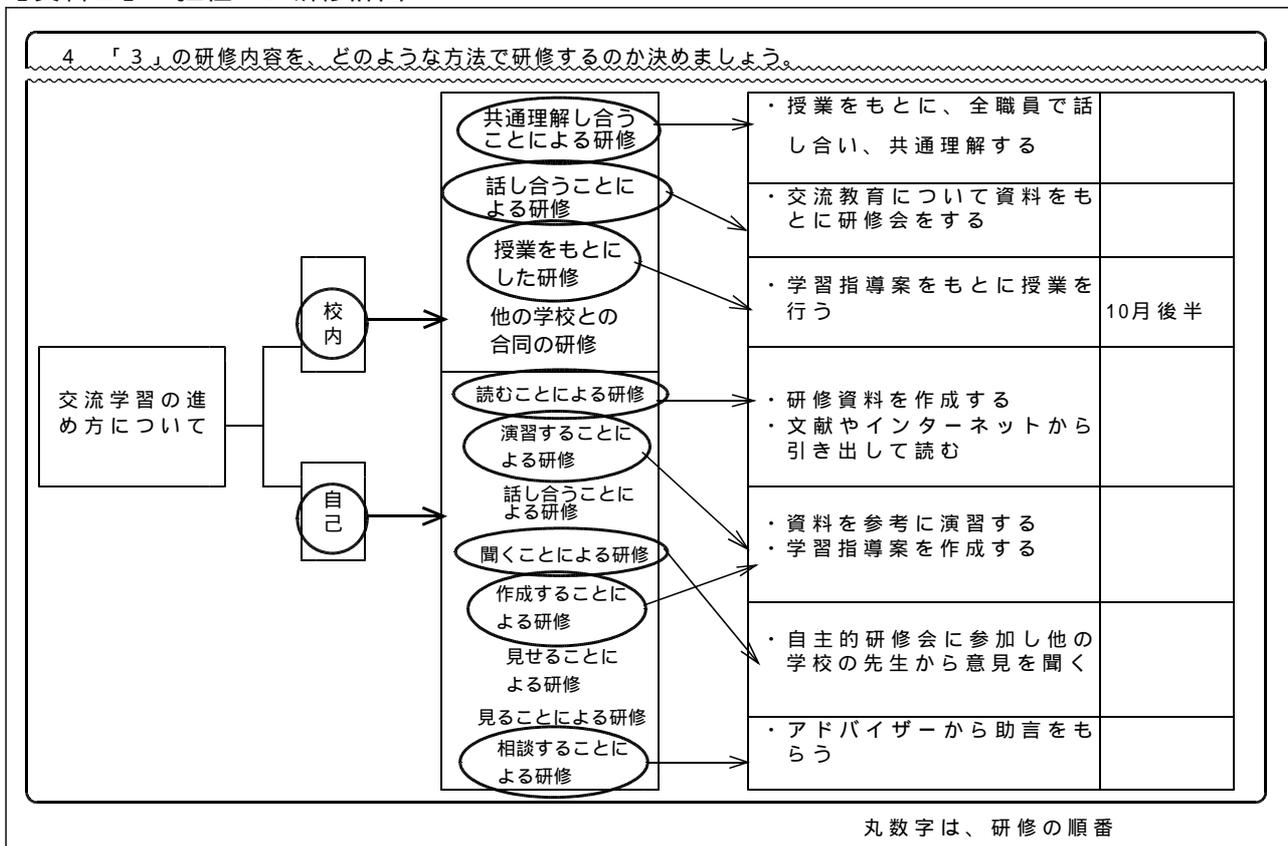
3 研修ブック11頁「特殊学級担任として必要な研修内容はどんなことですか」を参考に、2の研修課題を解決するための研修内容を決めましょう。

交流学習における学習単元、学習指導方法、支援準備の進め方について。

イ 研修方法の決定と研修計画の立案

研修方法の決定と研修計画の立案は、【資料2】に示すシートに特殊学級担任が記入することにより作成された。

【資料2】 担任Aの研修計画



(3) 指導実践 研修計画に基づく研修

研修計画に基づく研修は、立案した研修計画を基に行われた。具体的な研修の内容は、「校内での研修」と「自己研修」に分けて述べることにする。

ア 校内での研修

担任Aによる校内での研修は、実践期間中に2回にわたって行われた。主な内容は、【図5】に示すとおりである。

選択された研修の方法	研修の内容	具体的事項	研修ブックの活用の仕方
共通理解し合うことによる研修	特別支援教育校内研修会 ・今後の特別支援教育の在り方 ・交流教育について	・特別支援教育の在り方について説明 ・特殊学級担任より交流教育について ・協力学級担任より特殊学級児童の様子について ・質疑、意見交換	校内研修会の資料を作成する際、必要な部分を参考
授業をもとにした研修 話し合うことによる研修	小・中交流研修会 ・授業参観 ・交流研修会	交流学習図画工作科授業研究会 (5年生児童35名、特学児童2名) ・特殊学級担任より交流学習授業について説明 ・特別に支援を要する児童・生徒についての情報交換 ・LD、ADHD等の理解について	演習に基づいて授業の設計 交流研修会の資料を作成する場合、参考

【図5】 担任Aが中心になって行われた校内での研修

(ア) 共通理解し合うことによる研修

共通理解し合うことによる研修は、「特別支援教育校内研修会」として、担任Aが中心となって行われた。この校内研修会は、担任Aの研修計画の立案をとおして明らかになった課題について、全職員で共通理解する必要性が確認され、設定されたものである。

担任Aによる「交流教育についての説明」では、以下の内容が説明された。

<p>交流学習で育てたい力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊学級の児童 ・通常学級の児童 <p>特殊学級が目指す「生きる力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できた」「分かった」経験 ・自分から働きかける力、自分から選び・決めることのできる力 <p>図画工作科における交流の留意点</p>

上記の説明は、担任Aは自分で研修会の資料を研修ブックを基に作成し、その資料を全職員に配布しそれを見ながら行った。その中でも特に、特殊学級が目指す「生きる力」については、研修ブック第1章Q2「『生きる力』とはどのように考えればよいのですか」の記述が活用されており、研修ブックを活用した自己研修で行ったことが、校内での研修に活かされていた。特殊学級が目指す「生きる力」について、特殊学級担任だけではなく、通常の学級の担任や校内の他の教員も共通理解できたと思われる。

(イ) 授業をもとにした研修・話し合うことによる研修

授業をもとにした研修・話し合うことによる研修は、中学校区の「小・中交流研修会」として行われた。この研修会では、担任Aにより交流学習の授業研究会が実施され、授業の改善をもとに指導力の向上を目指すこともねらいとされており、事前に自己研修が行われた上で、授業研究会実施に至っ

ている。

授業は、特殊学級担任が授業者という形で行われた。児童の特性や発達の段階を理解している特殊学級担任が行うことで、特殊学級児童にも適切なねらいを設けた上での交流学习が行われており、題材は、教科書の既存の内容から選ばれているものの、特殊学級児童も参加できる内容として工夫されていた。

【授業の概要】

児童 5年生児童35名 + 特学児童2名
授業者 特殊学級担任
題材名 「音を形にしてみると」
題材について
楽器や身の回りにあるものを見つけ、自分なりにイメージを広げ、絵や立体に表すことをねらいとする。
特殊学級児童の参加の仕方
・表すものが簡単なので、自分なりに絵の具で表現できるように支援
・みんなの真似をし、みんなと一緒に学習したという満足感から「できた」という自信に結び付ける
本時の授業
・楽器の音、人工材をもとに、イメージを絵に表す。

授業後には、小・中学校の交流の場が設けられ、情報交換がなされ、特別に支援を要する児童生徒への指導の在り方が話し合われた。担任Aはこの場で使う資料としても、研修ブックを参考に「教室でできる特別支援教育」を作成し、配布・活用した。

イ 自己研修

担任Aによって行われた自己研修の主なものは、【図6】に示すとおりである。

選択された研修の方法	研修の内容	具体的事項	研修ブックの活用の仕方
読むことによる研修	特殊学級担任の指導力をめざす研修について	研修ブックを最初から最後まで読む	全体をとおして読む
	豊かな心をはぐくむ交流教育の実践について	今までの交流教育についての実践をまとめる	実践してきたことと見比べる
	交流・共同教育について	文献を読み、ポイントをノートに書く	関連のある部分を検索し読む
	教室で行う特別支援教育	文献等を読む	
演習することによる研修	図画工作科の交流学习の授業の在り方	図画工作科の目標の確認と単元の設定	演習シートに実際に記入する
聞くことによる研修	障害についての理解	花巻市主催研修会の講義「軽度発達障害児の理解と指導」を聴講する	
作成することによる研修	交流教育の必要性について校内研修の進め方	研修ブック・交流教育の展開の手引きを参考にしながら、資料を作成	読んでポイントをまとめる 参考文献を検索する
	交流学习図画工作科学習指導案作成	学習指導案の項を参考に、学習指導案を作成	手順に従って作成する
相談することによる研修	学習指導案について検討する	学習指導案について、経験豊かな先生と相談する	関連のある頁を見ながら相談する

【図6】 担任Aによって行われた自己研修

(ア) 読むことによる研修

読むことによる研修は、本研究の指導実践において、最も多くなされた方法である。これは、手軽に自分に合った内容を検索できたり、時間や場所の制限が少ないことが考えられる。

読むことによる研修では、研修ブックが多く活用されていた。また、本文を読んで理解するだけでなく、本文に紹介されている文献を読むなど、研修の広がりも見られた。

(イ) 演習することによる研修

演習することによる研修は、「交流学习図画工作科の授業の在り方」の研修で行われた。ここでは、研修ブックの「授業の組み立て方」の演習シートを活用して、目標の確認、単元の設定がなされた。この演習で指導目標等を明確にしたことが、次のように学習指導案に生かされている。

【演習シートの記述】

- 3 単元・題材の指導目標を設定しましょう。
 特定の知識や技能を習得させるという観点
 ・音を聴き、音をイメージすること
 興味・関心、意欲・態度を形成するという観点
 ・ともに学習していくという、意欲・態度
 経験させ、慣れ親しませるという観点
 ・集団に埋没せず、自分の考えを述べること



【学習指導案の記述】

- 5 題材の指導目標
 複式学級の児童
 (1) 音を聴いて得たイメージをもつことができる
 (2) 自分のもっている力を発揮し、模倣したり、
 イメージ化したりして自力で絵や立体に表す
 ことができる
 (3) 自分や友だちの作品を見て、思ったこと、感
 じたことを発表する

また、実際の授業の中では、特殊学級児童に対し、隣の児童をモデルにしながら描くように支援がなされていただけでなく、活躍の場が設定されたこと、適切な声かけがなされていたことなど、演習したことが実際の授業の中で生かされていた。このことにより、模倣することによりできた成功経験を増やし、「生きる力」をはぐくむことに結び付くよう、特殊学級担任による「できる状況づくり」が図られていた。【図7】の写真では、



【図7】 特殊学級児童の活動の様子

特殊学級児童ができた作品を自信をもって見せており、担任Aが研修で学んだ成果が、授業に生かされていた。

(4) 指導実践 検討会の実施

ここでは、研修ブックの意見・感想を中心に検討を行った。また、3人の特殊学級担任が研修の都度に記録した研修の記録用紙や、研修ブックの活用に関するアンケート調査を回収した。アンケート調査は、研修計画の立案に関すること、研修の実際に関すること、研修ブックの内容についての三つの視点から構成し、研究協力校の特殊学級担任3名によって記入がなされた。

研修全体の感想は【表3】に示すとおりである。その記述内容から、研修ブックを活用したことにより、特殊学級担任の研修に対する意識の高まりが見られた。

【表3】 研修全体の感想

	担任A	担任B	担任C
研修全体の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・交流教育について学校全体で理解が得られる場が設定できたことは、研修ブックを参考にし、計画性がもてたことが要因としてあげられる ・交流学級の担任が、以前より、どう子どもを動かすかなど、意識の変容が見られた ・研修は今後ますます必要になると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修ブックはとてもありがたく分かりやすいものだったので、今後も活用していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊学級担任として、やる気と元気のわく研修ブックだった ・初めての人は初めてなりに、経験を積んだ人は積んだ人なりに実践を充実させていくことができると感じた ・研修していくことの大切さと必要性を伝えられるすばらしい内容だった ・「とっておきの教育」ということが気に入った

3 実践結果の分析と考察

(1) 指導実践 打合せ会の実施 について

打合せ会は学校長等も参加したことにより、学校全体で研修を行っていく重要性を意識付けを図ることができ、校内での研修を進める上でより有効だった。

特殊学級担任は、研修ブックを提示されたことで、研修を具体的に理解することができた。

(2) 指導実践 研修計画の立案 について

研修計画立案では、研修ブック第2章の研修計画表のシートに、研修の進め方の手順に従って記入することにより、容易に研修計画が立案できたものと思われる。研修ブックは特殊学級担任が自ら研修の内容や方法を選択するために有効であった。

研修ブックを参考にし、計画性がもてたことにより、校内での研修が実施できたと言える。

研修課題を整理することにより、特殊学級担当の経験の豊富な担任は、啓発をねらいとした研修計画を立案することができた。

(3) 指導実践 研修計画に基づく研修 について

ア 校内での研修について

校内での研修は、特殊学級担任自身の指導力の向上に加え、他の教員の研修も行うことができ、校内の教員の意識に変化が見られ、研修することの影響の大きさを確認できた。

特別支援教育の啓発を目的とした校内研修の資料として、研修ブックを参考に作成されており、有効に活用されたと言える。

イ 自己研修について

「読むことによる研修」で研修ブックが活用されることが多かった。研修ブックは様々なニーズに応える内容が網羅されており、研修ブックを活用することにより必要な情報が取り入れられたと言える。

「授業の組み立て方」等の演習シートが活用され、児童生徒理解と授業の改善につながり、研修ブックの活用は研修したことを実践に生かすという点で有効だった。

(4) 指導実践 検討会の実施 について

検討会では、「特殊学級担任の指導力の向上を目指す研修の在り方に関するアンケート」を行い、次のことが明らかになった。

- ・研修ブックは、特殊学級担任が自分のニーズを把握し、研修課題を焦点化し研修計画を立案するのに有効であったこと
- ・研修計画を立案したことにより、見通しをもって研修に取り組むことができたこと
- ・研修ブックはとても参考になるものだったが、更に具体的な内容を求めていること
- ・研修ブックを活用した研修を行ったことにより、研修に対する意欲の高まりが見られたこと
- ・研修を、校内の他の教員との連携や相談できる人材の活用が加えることにより、研修したことが日常の実践に生かされたこと

(5) 指導実践全体をとおして

研修計画が立案されたことにより研修を計画的に進めることにつながっており、特殊学級担任の研修では、計画性をもつことの大切さが確認された。

特殊学級担任の研修の内容と方法を具体的に示し、特殊学級担任の抱える課題を解決できるという点で、研修ブックは有効であった。

特殊学級担当経験の違いにより、研修の内容と方法にも大きな違いが見られたが、それぞれの担任により研修ブックは活用され、研修ブックは有効だった。

4 児童生徒一人一人の「生きる力」をはぐくむための指導内容・方法についての研修試案についてのまとめ

次頁(1)～(3)に示すことから、特殊学級担任の研修において、児童生徒一人一人の「生きる力」を

はぐくむための指導内容・方法についての研修試案が有効であることを明らかにすることができた。

(1) 研修試案1「ニーズに合った研修内容」について

特殊学級担任に必要と考えられる研修内容は多岐にわたっているが、その中から必要な研修内容を焦点化していくことは、特殊学級担任の指導力向上を目指すに当たり、重要なことととらえることができた。

(2) 研修試案2「校内での研修・自己研修を中心にした研修の方法」について

「校内での研修」は四つの方法、「自己研修」は八つの方法を示した。特殊学級担任が自分で行う研修の方法を示すことにより、与えられた研修のみではなく、自分で研修を行っていくことができるものととらえることができた。

(3) 研修試案3「『生きる力』をはぐくむための指導内容・方法についての研修資料」について

研修試案を具体化した研修ブックは、指導実践の中で常に活用され、身に付けたい知識・技能が多様である特殊学級担任の研修において、多くの内容を1冊にまとめた研修ブックは有効であるととらえることができた。

特殊学級担任の指導力の向上を目指す研修の在り方についてのまとめ

1 研究のまとめ

(1) 特殊学級担任の研修に関する実態調査とその分析・考察について

特殊学級担任の研修の現状について実態調査を行い、課題を明らかにすることができた。

(2) 研修試案の作成と活用について

ア 研修試案の作成と指導実践計画の立案

実態調査の結果や基本構想の検討を基に、研修試案1「ニーズに合った研修の内容」、研修試案2「校内での研修、自己研修を中心にした研修の方法」、研修試案3「『生きる力』をはぐくむための指導内容・方法についての研修資料」を作成した。そして、研修試案を基に作成した研修ブックは、どの特殊学級担任にも活用されるという点で成果が見られた。

イ 研修試案に基づく指導実践

指導実践は、特殊学級担任が提示された研修ブックを基に研修計画を立案し、その後研修ブックを活用して研修を行った。特殊学級担任は計画を立案したことにより、「校内での研修」「自己研修」を計画的に進めることができた。研修ブックは、研修は自分で行うものという意識の基に「校内での研修」「自己研修」を主体的に行える手だてとなった。

(3) 特殊学級担任の研修の在り方について

特殊学級担任がニーズに応じて主体的に研修を行うことにより、児童生徒理解と指導内容・方法の充実につながり、小・中学校特殊学級担任の指導力向上に役立つことが明らかになった。

2 今後の課題

今後、研修ブックの活用が特殊学級担任だけではなく通常の学級の担任にも広げられるよう、研修ブックの内容を更に充実させるよう検討していく必要がある。

【主な参考文献】

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課編集，

「特別支援教育 特集『専門性の向上』2001 3」，東洋館出版社，2001